

環境経営の推進

持続可能な社会の実現を目指し ―最高環境管理統括者挨拶―



最高環境管理統括者
(常務執行役員)

成松 郁廣

持続可能な社会を実現していくためには、地球温暖化の防止、環境負荷の低減、生物多様性の保全などの社会的課題を着実に解決していかなければなりません。そのために川崎重工グループでは、2010年に「環境憲章」を改定し、さらに、2020年のあるべき姿を目指す「環境ビジョン2020」を制定いたしました。ここでは、①低炭素社会の実現、②循環型社会の実現、③自然共生社会の実現および④環境マネジメントシステムの確立を重点施策に掲げ、ビジョンの達成に向け、積極的な取り組みを展開しています。

このたび発行する「Kawasaki環境報告書2016」では、第8次環境経営活動基本計画（3か年）の最終年度にあたる2015年度の環境経営活動の成果をまとめています。

まず、製造現場においては、「エネルギー見える化システム」の導入による省エネ活動を推進し、ムダ・ムラの排除や設備の高効率化を実施することにより、温室効果ガス排出量の削減およびエネルギーコスト削減を概ね達成することができました。

また、環境性能に特に優れた「Kawasakiグリーン製品」においては、その評価・登録制度を2014年に導入後、制度を社内外に広く浸透させ、現在32製品をラインアップするに至りました。当社グループ製品のライフサイクルで排出される温室効果ガスの約80%は、販売後の使用時に発生していますので、排出量の少ない「Kawasakiグリーン製品」が広く世界に普及し、大幅な環境改善に貢献できるよう一層の促進活動に努めてまいります。

読者のみなさまにおかれましては、この報告書を通じて、当社グループの環境経営へのご理解を深めていただければ幸いです。

環境憲章【1999年制定(2010年改定)】

環境基本理念

川崎重工グループは「ものづくり」を通じて社会の発展に寄与することを基本に据え、「陸・海・空にわたる基礎産業企業」としてグローバルに事業を展開する中で、地球環境問題の解決を図るため、「低炭素社会の実現」、「循環型社会の実現」および「自然共生社会の実現」を目指し、環境に調和した事業活動と地球環境に配慮した自社製品・サービスを通じて、社会の「持続可能な発展」に貢献します。

行動指針

- ① 地球環境問題は、人類共通の重要課題と自覚し、環境との調和を経営の最重要課題の一つとして、自主的・積極的にグローバルに取り組む。
- ② 生産活動において、省資源・省エネルギー・リサイクル・廃棄物の削減に取り組み、環境への負荷の低減を推進する。
- ③ 製品企画、研究開発、設計段階において、資材の購入、製造、流通、使用、廃棄の各段階での環境負荷をできる限り低減するよう配慮する。
- ④ 事業活動による生態系への影響の最小化を図るとともに、生態系の保全に積極的に取り組む。
- ⑤ 地球環境問題解決のために環境保全、省エネルギー、省資源に有効な新技術・新製品を開発し、社会に提供する。
- ⑥ 環境関連の法律、規則、協定および関連業界の自主行動計画等を遵守するとともに、必要に応じて自主管理基準を設定し、一層の環境管理レベルの向上に努める。
- ⑦ 環境教育・広報活動を通じ、全従業員に地球環境問題への意識の高揚を図り、一人ひとりがライフサイクルの見直しや社会貢献活動への参加を促進する。
- ⑧ 環境保全活動に関する環境マネジメントシステムを構築し、定期的に環境保全に関する会議を開催し、見直しを行い、環境保全活動の継続的改善を図る。

環境経営の基盤

川崎重工では、全社環境経営活動を統括管理し、環境問題に関する一切の責任と権限を有する「最高環境管理統括者（環境管理担当役員）」を選任のうえ、全社の環境管理体制を構築しています。（図1：環境管理組織図）

そして、環境経営活動の継続的改善を図るため、最高環境管理統括者を議長とする地球環境会議において、具体的な手順、実施方法等運用に関する審議や決定を行っています。

同様に、省エネ法の定めるところにより、最高環境管理

統括者が「エネルギー管理統括者」に就き、エネルギー管理体制を構築しています。（図2：エネルギー管理組織図）

省エネルギー活動は、全社エネルギー管理会議等会議体を定期的に行い、事業規模に応じて積極的に展開しています。

当社は、1994年から環境管理体制の整備・確立に向けた取り組みを行ってきており、将来ビジョンを見定め、実現に向けて着実にステップアップしています。（図3：環境経営の流れ）

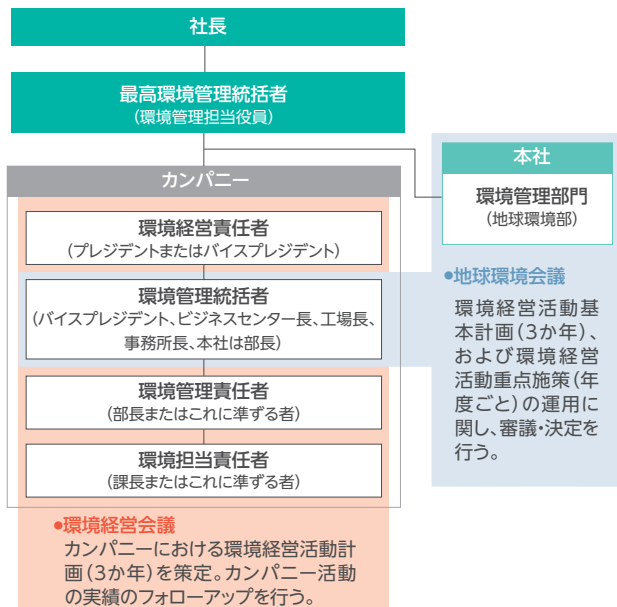


図1：環境管理組織図

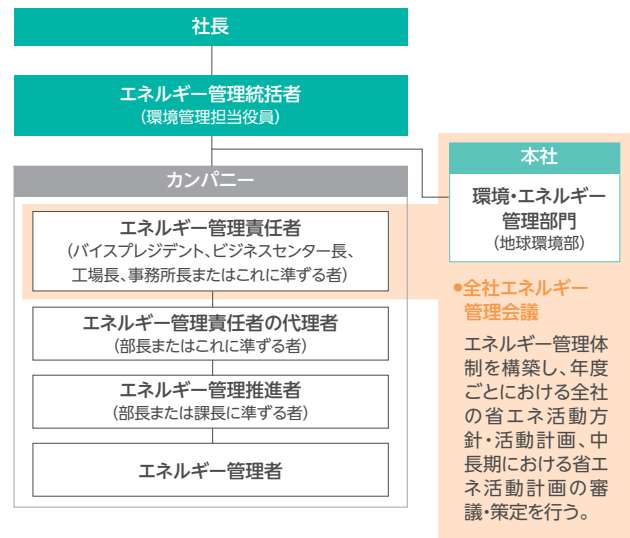


図2：エネルギー管理組織図

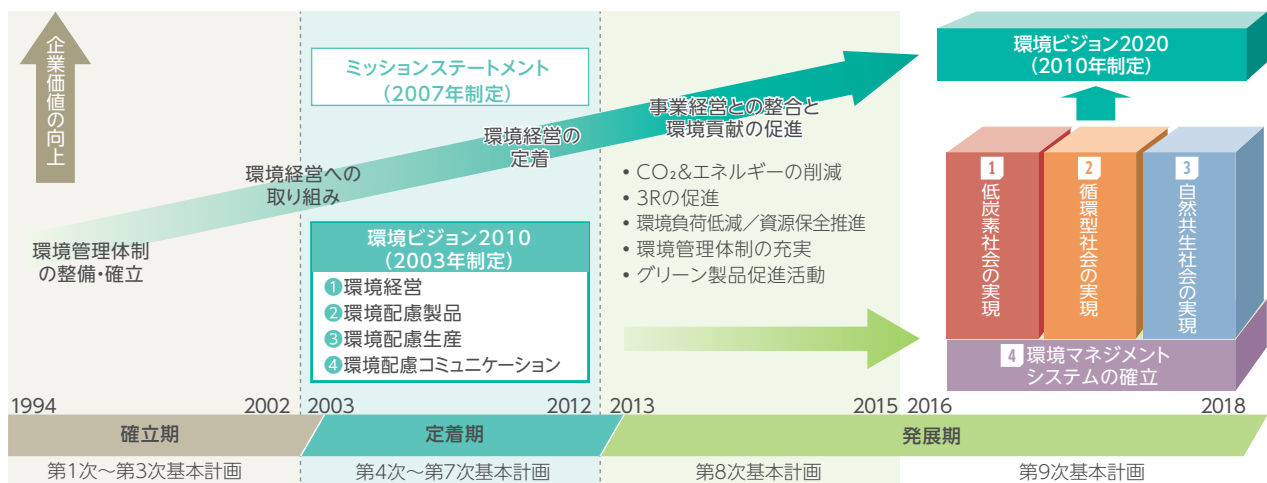


図3：環境経営の流れ

第9次環境経営活動基本計画(2016～2018年度)と環境ビジョン2020の推進

2016年度から2018年度までの第9次環境経営活動基本計画を策定しました。

第9次は、第8次で定めた「事業経営」と「環境経営」との整合を引き続き強力に推進することをコンセプトに掲げています。また、エネルギー自由化に伴う調達多様化への対応、国連気候変動枠組条約第21回締約国会議(COP21)における国の目標^{*}との協調、機関投資家や企業評価機関他への環境情報の適切な開示と透明性確保を新たな重要側面と位置付けています。環境ビジョン2020達成に向け(1)CO₂&エネルギーコスト削減、(2)3Rの推進、(3)環境負荷物質削減/資源保全推進、(4)当社グループの環境管理体制の充実の4つの課題に関する重点施策と、環境ブランドの向上に取り組んでいきます。

第9次環境経営活動基本計画

事業経営への整合と環境貢献の促進

重点施策	第9次計画目標
CO ₂ &エネルギーコスト削減 低炭素社会の実現	エネルギー見える化設備の活用等による資源・エネルギーコスト削減の推進 年間の資源・エネルギーコストを5%以上削減する
	CO ₂ 排出量の削減 CO ₂ 排出量を原単位で前年度比3%以上削減する
	製品貢献によるCO ₂ 排出量削減 製品貢献によるCO ₂ 削減効果を把握し外部発信する
	投資案件の厳選 省エネ対策設備はIRR8%以上を確保する
3Rの推進 循環型社会の実現	廃棄物総排出量の削減およびゼロエミッションの堅持 廃棄物総排出量を原単位で第8次実績値から1%以上削減 最終処分率は1%以下とする
	リユース・リサイクルの推進 リサイクル率を98%以上とする
	PCB処理の推進 高濃度・低濃度PCB廃棄物を計画的に削減する
環境負荷物質削減/ 資源保全推進 自然共生社会の実現	化学物質の削減 主要VOC [*] は原単位で第8次実績値から1%以上削減する ジクロロメタンは前年度から1%以上削減する 六価クロムは2020年度までの原則ゼロ化を目指す
	水の省資源化 水の使用量を原単位で毎年1%以上削減する 上水は節水・漏水対策の効果をコストでフォローする
	森林保全活動 森林保全活動を年2回以上実施する
KHIグループの環境管理体制の充実 環境マネジメントシステムの充実	環境マネジメント力強化および環境リスクの低減 認証事業場はISO14001:2015年版への移行を完了する 国内外の生産拠点を訪問し環境管理状況の把握を進める
環境ブランドの向上	Kawasakiグリーン製品促進活動の推進 Kawasakiグリーン製品を毎年登録し外部発信する
	社外評価、ランキング等イメージアップ 第三者検証の結果を公表しCDP(世界で最も権威のあるCO ₂ 指標)等の評価向上、 Dow Jones Sustainability Indexの銘柄選定を継続する

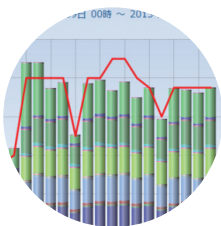
^{*}主要VOC:当社グループでは、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを主要VOCとしています。(VOC:揮発性有機化合物(Volatile Organic Compounds))

※国の目標CO₂排出削減量
COP21（フランス パリ 2015.12）
…………… 2030年度に2013年度比で26%削減する

グループミッション
世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献する
“Global Kawasaki”

環境ビジョン2020

2020年 川崎重工グループのイメージ



• **エネルギー使用量とCO₂排出量**
大幅に削減
• **製品貢献**
使用時のCO₂排出量を大幅に削減



• **3R**
原単位で大幅に削減
リサイクル率97%以上
ゼロエミッションは堅持
• **PCB処理**
すべての処理を終了



• **主要VOC**
原単位又は総量で大幅削減
• **重金属**
使用量を大幅に削減
• **森林保全活動**
森林保全活動を継続



• **EMSの構築**
川崎重工グループで構築完了



低炭素社会の実現

エネルギーを無駄なく利用する製品とものづくりで
グローバルに地球温暖化防止に貢献

- ①2020年の温室効果ガスの排出量を、国の目標に合わせて削減している。
- ②エネルギーを有効に利用する製品・サービスを顧客に提供し、地球規模で温室効果ガスの排出を削減している。
- ③生産過程や物流過程における省エネルギーを推進し、温室効果ガスの排出削減を行っている。

循環型社会の実現

資源を無駄なく利用する製品とものづくりで、
有限な資源を大切に活かし切り、循環させる

- ①資源を有効に利用する設計を推進し、製品の軽量化や耐久性・リサイクル性などの向上を推進している。
- ②生産活動での3R（廃棄物の発生抑制、再使用、再資源化）を推進し、全工場のゼロエミッションを達成している。
- ③全てのPCB廃棄物とPCB含有機器の適正処理を完了している。

自然共生社会の実現

地球環境に調和した製品とものづくりで、
環境負荷を下げ、生態系の保全に貢献

- ①大気汚染や水質汚濁を防止する製品・サービスを顧客に提供し、環境の改善や生態系の保全を推進している。
- ②製品への化学物質の使用を削減するとともに、生産活動での化学物質の使用を削減している。
- ③地域の森林保全活動など、生態系の環境を保全する活動に協力している。

環境マネジメントシステムの確立

環境ビジョン2020を実現する環境経営の基盤づくり

- ①内外の全ての連結子会社がEMSを構築し、グループ全体で環境経営を推進している。
- ②環境法令を遵守し、定期的な遵守状況のフォローを行っている。
- ③社内外へ環境情報を発信し、双方向の対話を持ちながら環境保全活動をしている。